

シャーシの中継化で輸送効率を向上し、労働条件改善とCO₂排出削減を推進

【事業の目的・経緯等】

E社の取引先荷主のひとつである大手菓子メーカーは、埼玉県と大阪府に東西の拠点センターを持つ。E社ではこの荷主の関東の拠点運営を一括受託するとともに、東西拠点間の製品輸送を2日運行で行っている。また、関西地区のM社も同様に、関西の拠点運営と東西拠点間の幹線輸送を行っている。同一の荷主を持ち、運行経路・パターンや回数が同様であることから、両社が協力して東西間の拠点間輸送の効率化に取り組むこととなった。

【事業の概要】

東西間の中間地点（長野県飯田ICの近くのガソリンスタンドの敷地）を利用して、両社の車両のシャーシ交換を行う仕組みを導入し、実質的な1日運行を可能とした。

背景

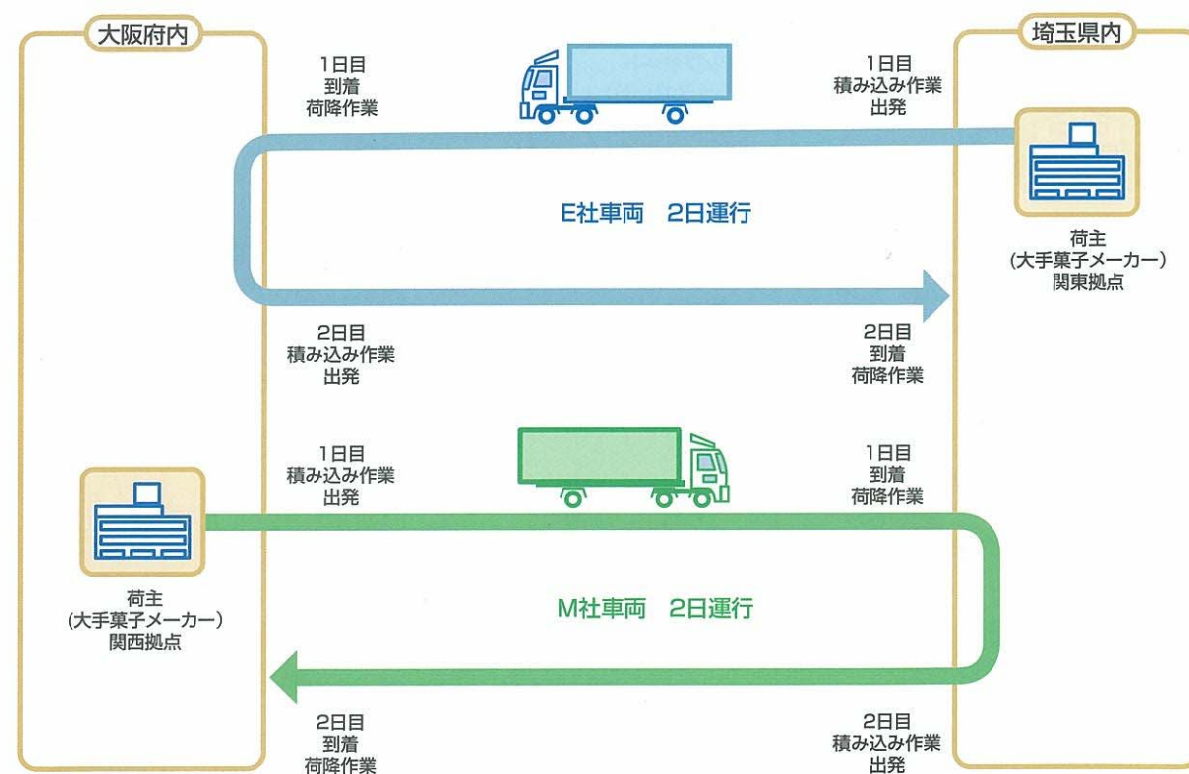
長距離輸送における効率化は、どの事業者にとっても大きな課題である。トレーラ輸送なら、途中でシャーシを交換してUターンすれば、ヘッドの稼働効率が向上し、燃料コストの削減やドライバーの拘束時間の短縮などが実現できる。しかし現実には、運賃の違い、両社の運行回数やその他の諸条件がそろわなければ難しい。E社とM社は同一荷主で、トレーラの運行形態も同じという条件を活かして新たな試みに挑戦した。

一日に東西から3両ずつ出発して交換できるまでになった。

【事業の効果等】

- ・1運行の拘束時間は29時間から13時間に短縮。
- ・運行は2日になるが、両社のドライバーは自宅での休息が可能となった。
- ・アイドリング時間や冷凍機稼働時間の短縮、軽油使用料の削減（月間504リットル）により、月間1,320kgのCO₂排出量削減効果がある。

Before



After

